

● 2017年（平成29年）7～9月

1 治安・軍事情勢

（1）ミサイルの落達

7月1日、ヨルダン国境近くにおいて対反政府勢力作戦を行っていたシリア空軍機から3発のミサイルがヨルダン領域内に飛来、その内2発がジャーベル国境管理事務所の税関施設に、1発がジャーベル国境からラムサー市へと通じる道路沿いに落達した。怪我人等はなかったものの、火災によりハーブ畑が消失した。現在、関係省庁等が調査を実施中（7月1日付ヨルダン軍公式HP等）。

（2）米軍兵士殺害事件に関する軍事裁判の結果

7月17日、軍事裁判所は、2016年11月4日にマアーン県で発生した米軍兵士3名殺害事件の裁判において、被告に対し、殺人及び軍事規律違反の罪で終身刑を言い渡した。これに対して、被告側弁護士は19日、判決を不服として上級軍事裁判所に控訴した。

本件被告の出身部族であるフエイタート族は、20日、同判決を議論するため、マアーン県 Jafer 地区において会合を開催し、被告を英雄と称えるところに、軍事法廷は憲法に反して違法とする声明を発表した。同声明では、本件裁判が「政治的」であると主張し、被告の釈放を求め、フエイタート族を支持する多くのヨルダンの部族の参加が得られたとした。

24日、司法長官は控訴軍事裁判所に対し、米軍兵士殺害事件に関して、同事件の関係書類を提出した。また、ヨルダン軍は、事件の詳細に関する報告書を発表するとともに、同事件の一部始終を撮影した動画を同軍のウェブサイトに掲載した。（7月18～25日各紙）

（3）イスラエル大使館発砲事件

7月23日、ヨルダン警察は、イスラエル大使館において発砲事件が発生し、ヨルダン人1名が死亡、ヨルダン人1名とイスラエル人1名が負傷した旨発表した（その後、ヨルダン人の死者は2名となった）。

24日、ヨルダン警察は事件の捜査は終了したとしつつ、イスラエル大使館員住居への家具の搬送が遅延したことに対する口論により、ヨルダン人少年が、大使館員に危害を加えたことが原因であるとの結論に至った旨発表。

25日、サファールディ外相は、本件について取引も交渉も存在せず、またヨルダンには本事件の関係者であるイスラエル大使館警備担当官に対して、必要な手続きを経る前の出国は許可していない旨述べた。同警備担当官は、事件の翌日、ヨルダンを出国したイスラエルに到着、その後ネタニヤフ首相による歓迎を受けた。

同日、アンマン市内において、死亡した少年の葬儀が行われ、約2千人を超

える参加者が集まった。さらに、同日の下院議会の審議において、イスラエル大警備担当官のヨルダン出国を許可した政府の方針に抗議して数十名の下院議員が退席したため、審議が中止された。

アブドゥラー国王は、27日、本事件で死亡した少年の追悼テントを訪問し、弔意を述べた。

同日、ヨルダンの検察は、外交特権により同警備担当官を起訴することはできないとの結論に至ったが、イスラエルにおいて裁判を逃れられるものではないとし、本件捜査終了後、ヨルダン外務省を通じてイスラエルの司法関係機関に提供するため、関係捜査書類を司法省に提出した。

28日、アンマン市 Rabieh 地区に所在する当地イスラエル大使館付近において、約300人が参加する抗議集会が行われた。参加者は、大使館の閉鎖及びイスラエルとの平和条約の破棄を主張した。

8月13日、ヨルダン政府筋は、イスラエル側に在ヨルダン・イスラエル大使の帰任を遅らせるように伝えたことを明らかにした。この背景には、ヨルダン人殺害事案に対するネタニヤフ首相の言動があるとし、ヨルダンとしては、警備官に対する適切な法的措置が取られることを始め、本件の徹底的な調査が保証されない限り、帰任を認めない旨の書簡を発出した。(7月24～31日及び8月14日各紙)

(4) 国境侵害事案

ヨルダン軍は9月5日、シリアとの国境において、シリア側からヨルダンに侵入しようとした男を逮捕した。また、9月6日、同軍は、シリアから銃器100丁を密輸しようとした男を逮捕した。(9月8日、9日付各紙)

(5) IOMによる国境における支援

ヨルダン軍とIOMは9月19日、シリアとの国境における治安の強化及び難民に対する援助の強化のため、52.8百万ユーロの支援について同意した。(9月20日各紙)

2 一般犯罪・凶悪犯罪等の動向

(1) 拳銃使用犯罪

(ア) マアーンの銃撃事件

8月5日、マアーン市で巡回中の警察官3名が機関銃による銃撃を受けた。被害者のうち2名が重体で、1名は病院に搬送後死亡。犯人は逃走した。

マアーン県の元知事によれば、警察と被疑者の家族の間で、被疑者を出頭させるための説得・交渉が続いたが、9日、警察は被疑者が潜伏しているとされた家を検索したが、被疑者の発見には至らなかった旨発表した。(8月6日及び9日各紙)

(イ) ザルカ県における拳銃使用殺人事件

ヨルダン警察は、8月26日、ザルカ県Russayfahで開催されていた結婚式において発生した拳銃使用殺人事件及びそれに続いて発生した暴動に関与したとして、17人を逮捕した旨発表した。被害者の男性は、8月24日夜、結婚式の最中に殺害された。また、事件発生後、被疑者の内の一人の住居と思われる家が放火された。(8月27日各紙)

ヨルダン警察は、ザルカ県において9月18日深夜に発生した拳銃使用事件について、被疑者である薬剤師を逮捕した。被疑者はラウンドアバウトにおいて被害者2名と口論になった後、拳銃を発射したもの。被害者はそれぞれ腹部と足に銃撃を受けているが、命に別状は無い。(9月20日各紙)

(ウ) アンマン県における拳銃使用殺人事件被疑者の逮捕

刑事裁判所検察官は9月9日、息子を殺害した罪で72歳の男を訴追した。ヨルダン警察は9月7日夜、息子が拳銃自殺をしたとする通報を受けて現場に赴いたが、検視の結果、自殺ではなく殺人事件であるとの結論に至り、捜査員が家族に対する聴取を行なったところ、父親である被疑者が犯行を自供した。被疑者は、息子が度々トラブルを起こしていたこと及び口論の末に拳銃を使用して殺害した旨供述している。事件はアンマン県 Naoie 地区において発生した。(9月10日各紙)

(エ) アンマン市におけるガソリンスタンド強盗事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察犯罪捜査部は9月17日、ガソリンスタンドを対象とした強盗事件の被疑者を逮捕するとともに被害金を押収した。警察によると、銃器を所持した被疑者3名は、アンマン市 Al Zohoor 地区に所在するガソリンスタンドにおいて、店員を脅して現金13,000JDを奪い、偽造ナンバープレートを付けた車両で逃亡した。被疑者の内1名は、ガソリンスタンドの従業員であり、自身が犯行を計画した旨供述している。警察は、残り2名の被疑者の行方を追っている。(9月19日各紙)

(オ) アンマン市における拳銃使用店舗襲撃事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察は9月28日、アンマン市北西部 Wasti At-Tall 通りに所在する店舗を、拳銃を使用して襲撃したとして7名を逮捕した。同事件は、事件前に生じた2名の間のトラブルが原因であり、被疑者らは拳銃を使用して同店店長を襲撃し、現場から逃走する際に同店従業員が負傷している。(9月29日、30日各紙)

(2) 薬物犯罪関係

(ア) ヨルダン軍による薬物密輸の阻止

ヨルダン軍は、8月22日、北部国境において、シリア側から薬物を密輸し

ようとした男2名を発見し、これを阻止した。被疑者2名のうち1名は死亡し、1名はシリア側へと戻った。同軍は、3、000錠のカプタゴン等薬物を押収した。同軍は、8月21日にも、シリアとの国境において、薬物の密輸を阻止している。同事案においては、被疑者6名がシリア側へと逃走しており、麻薬の入ったバッグを押収された。（8月23日各紙）

（イ）ヨルダン警察による薬物密輸の摘発

ヨルダン警察薬物対策部は、8月22日、二つの事件で合計42万2千錠の薬物押収した旨発表した。一方の事件において32万2千錠の薬物を密輸しようとした被疑者を多数検挙し、他方では、国境において、薬物10万錠を密輸しようとした被疑者を逮捕するとともに、薬物密売人の居宅等を搜索し、4人を逮捕、1万1千錠の薬物、6丁の銃器及び大量の弾薬を押収した。（8月23日各紙）

（ウ）アンマン等における薬物事件関係先に対する家宅搜索の実施

ヨルダン警察薬物対策部は、8月28日、アンマン県等において、複数の住居に対する家宅搜索を実施した結果、被疑者を逮捕するとともに、薬物及び銃器を押収した旨発表した。（8月30日各紙）

（エ）薬物密輸事件の摘発

ヨルダン警察薬物対策部は9月17日、3件の薬物密輸を摘発したと発表した。

ザルカ県において、麻薬を郵便物の中に隠匿して密輸しようとしているとの情報に基づいて捜査を行い、茄子の中に隠匿された風船に包まれた5,000錠の薬物を発見し、被疑者2名を逮捕した。

南部国境において、22,000錠の麻薬を車両のエンジンに隠匿して密輸しようとした被疑者を逮捕した。

アカバ県において、650グラムのコカインを持ち込もうとした被疑者を逮捕した。（9月18日各紙）

（オ）薬物密輸事件被告人に対する判決

国家治安裁判所は、薬物密輸の罪でヨルダン人1名及びサウジアラビア人4名に対し有罪判決を下した。判決内容は、最も重いもので最高15年の懲役及び20,000JDの罰金、最も軽いもので5年の懲役及び7,000JDの罰金とされた。（9月29日、30日各紙）

（3）その他の凶悪犯罪

（ア）マアーン県における発電所襲撃事件

マアーン県に所在する電力供給会社は、同県Husseiniya地区に所在する二つの発電所が8月16日、何者かによる銃撃を受けたために同施設に障害が生じた

ため、電力供給をすることができず、付近の住民に影響が及んだ旨発表した。
(8月18日及び19各紙)

(イ) 恐喝事件被疑者及びひったくり事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察犯罪捜査部は、8月20日、交通事故の被害者を装い現金を脅し取ったとして、被疑者2名を逮捕した。被疑者らは、走行する車の前に飛び込んで交通事故を偽装し、運転手に対して警察に事故を届けたい代わりに現金を要求していた。

また、同部は、イルビッド県において、ひったくりの被疑者を逮捕した。被疑者は、9回犯行を行ったと供述している。(8月22日各紙)

(ウ) 市長事務所に対する襲撃事件

8月21日、午前3時30分ころ、ザルカ県Russayfah地区において、市長の事務所が複数の者らによる銃撃被害を受けた。(8月22日各紙)

(エ) 投票所襲撃事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察は、8月28日、本年8月15日に実施された地方選挙投票日当日、アンマン県Muwaqqar地区において発生した投票所襲撃事件に関して、自首してきた14人を逮捕した旨発表した。警察は今回の逮捕に先立って関係する容疑者3名を既に逮捕している。(8月29日各紙)

(オ) コラムニストに対するソーシャルメディアを利用した脅迫事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察は9月5日、宗教と国家の分離及び女性の権利の擁護等を主張するコラムニストを脅迫する内容の投稿をソーシャルメディアに投稿したとして、二人の男を逮捕した旨発表した。(9月6日各紙)

(カ) アンマン市における刺殺事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察は9月9日、アンマン市において同日早朝に発生した刺殺事件の被疑者1名を逮捕し、共犯者1名を追跡中である旨発表した。被疑者は、38歳の被害男性をShmeisani地区にある私立病院に置き去り、車両で立ち去った。検視の結果、被害者の遺体には複数の刺し傷が認められており、被疑者は、動機は個人的な問題である旨供述している。(9月11日各紙)

(キ) アンマン県における息子殺人事件被疑者の逮捕

刑事裁判所は9月18日、アンマン県近郊において14歳の息子を感じ死させたとして、38歳の男を殺人の罪で訴追した。被害者は、事故により感電したとして病院に搬送され、到着とともに死亡が確認されていたが、被害者の足に不審な傷跡があることに疑いを抱いた医師や病院関係者が警察に通報し、事件が判明した。被疑者は、息子が5JDを財布から持ち出したことに対するしつけとして電気ショックを与えた旨供述している。(9月19日各紙)

(ク) ガラスドア破壊侵入出店荒らし事件被疑者の逮捕

ヨルダン警察犯罪捜査部は9月24日、店舗や会社事務所に対する新しい手口の窃盗事件が発生しているとして、市民に対して注意を促した。シャッターを下ろしていない店舗のガラスドアを鉄の棒を使って破壊し侵入する手口の窃盗事件57件の発生を受けて特別捜査班が編成され、捜査開始から一ヶ月後、同捜査班は被疑者を特定した。同人は、余罪がある旨供述しており、捜査が続けられている。(9月25日各紙)

3 テロ・爆弾事案関連

(1) アカバ県におけるテロ計画事件の裁判の実施

国家治安裁判所は9月12日、テロに関連する20の事件の審理を行った。同裁判所は、16人からなるテロリストグループを訴追している。女の率いる同グループは、今年の三月、アカバに所在する警察施設に対するテロ攻撃を計画していたところ、治安機関による襲撃を受け、検挙されている。(9月13日各紙)

(2) テロ事件に対する裁判の実施

国家治安裁判所は9月13日、17人の被告に対し、30件のテロ事件に関して有罪を宣告し、最も軽いもので3年、最も重いもので15年の禁固刑を科した。これらの事件の中には、ISIL やヌスラ戦線といったテロリストグループに参加しようとしたものやテロに関する思想を拡げようとしたものが含まれる。(9月14日各紙)

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。